

第7回インフラメンテナンス大賞農林水産大臣賞を受賞しました

資源利用研究領域 領域長 遠藤和子

1月18日、R3～R4スマート農業実証プロジェクトで取り組んだ内容^{注1}が評価され、「第7回インフラメンテナンス大賞農林水産大臣賞」^{注2}を共同応募機関のひとつとして受賞しました(代表応募機関:立梅用水土地改良区、共同応募機関:西村彦左衛門×ICT・IoT 技術実証グループ(代表:三重大学・岡島賢治教授))。

スマ農実証プロでは、水路およびため池に、遠隔監視カメラやIoT水位計、IoT雨量計、遠隔操作可能なゲートを設置し、既設の雨量計等の情報も一元的に管理するWEBツールを開発実装することにより、職員の作業時間の大幅削減と作業の効率化を達成しました。また、荒天時のゲート操作を夜中や不在時でも適時に管理者の安全を確保しながら実施できるようになり、現場の皆さんの精神的な負担軽減にもつながりました。

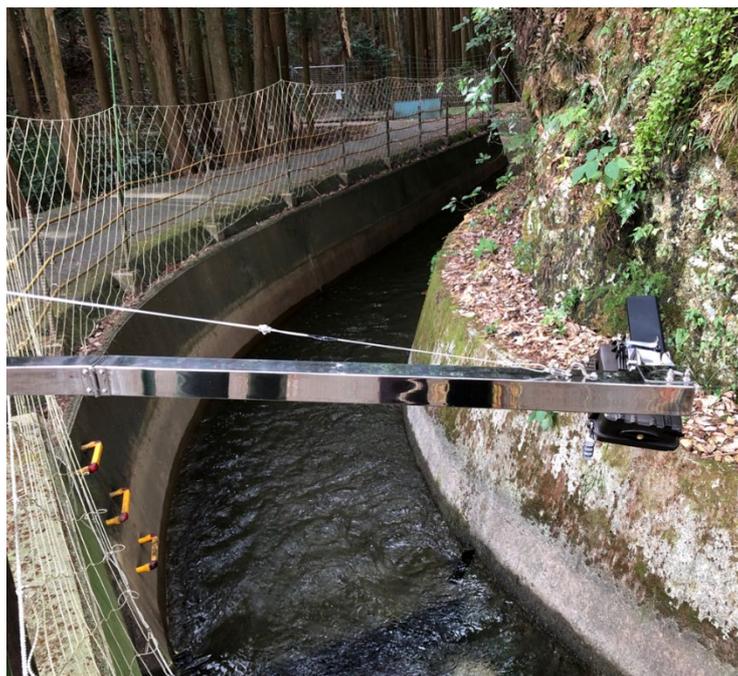
プロジェクトが採択されたR3は、コロナ禍初期にあたり、思うように現場に赴いたり対面での打ち合わせをしたりということができない中でのスタートでしたが、実証技術が現地の皆さんの助けになり、また、このような栄誉ある賞につながったことは大変うれしいことでした。農研機構より参画したメンバー(吉迫グループ長、廣瀬上級研、松田グループ長補佐(現西日本農業研究センター)、芦田上級研、藤井研究員、遠藤ら)で喜びを共有したところです。

本システムは、スマ農実証プロ終了後も本格稼働されています。今回の実証を通じ、中山間地域の水利施設の管理にとってICT化は非常に多くの効果をもたらすことがわかっており、引き続き年間の運用に際してどのような課題があるか継続的に調査を進めているところです。

注1:「農業インフラの多目的活用による多面的機能発揮と強靱な中山間農業のための技術体系の実証」<https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r3/results/chiiki-nogyo/159972.html>

注2:

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/03activity/pdf/07_04.pdf、
<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/sekkei/240116.html>



スマート施設管理のメイン装置であるカメラ



多種類の機器が取得する画像・データを一覧できる WEB ツール



渡嘉敷所長と記念撮影